

# 鐵鋼と鋼

## 第貳年 第拾壹號

大正五年十一月二十五日發行

### 鐵鋼の獨立自給策に就て

(大正五年一月十五日東京ステーションホテルに開催の、機械學會、造船協會、電氣學會、火兵學會、及本協會との聯合談話會に於て)

#### 開會の挨拶

工學博士 加茂 正雄

御來會の方々が豫想外に多かつた爲め、甚だ遅延を致しましたが、用意も略ぼ整つた様でありますから、只今より開會を致します、私は鐵鋼協會、造船協會の正員であり且つ機械學會の幹事を務めて居ります加茂正雄であります、本會首唱者の一人と致しまして諸君に御諮りを致しますが、今日此談話會に於ける座長として造船協會の理事寺野工學博士を推したいと言ふ、發企人一同の希望でありますから、御異議がなければ右様計りたいと考へます。……………別に御異存もないようでありますから、それでは寺野博士に座長を御依頼致します。

#### 座長の挨拶

工學博士 寺野 精一

閣下並に諸君。唯今機械學會幹事加茂博士の御發議に對し諸君の御賛成に由りて、不肖が本日の五學會聯合の講演討論會に於て、座長の席を瀆すこととなりましたことは私に取て光榮之れに過ぐるものありません。但し恐るゝ處は斯の如き多數の御會合に於て、議場を整理することは私に於て全く何等の經驗をも有て居りませぬから、或は失態を演ずることがないとも限りませぬ、此儀は何卒御容赦あらんことを豫め諸君に御願申上げて置きます。

2

諸此講演討論會を開催しました趣旨は既に書面を以て各學會より御通知して置きましたから、充分御了知下された事と考ますが、開會に先ち尙一應簡單に其成行を申述べて置きます。

一昨年歐洲に大戰亂が勃發して以來、本邦の工業界は目覺しき活動をなし、啻に從來輸入されて來た機械船舶及其他各般の工業品を内地に於て製作供給し得るに至りましたのみならず、進んで外國に之を輸出して東洋市場より外國製品を驅逐せんとするが如き好況を呈して、將に本邦工業の獨立を告んとして居ります。其結果として工業の主要原料たる鋼鐵材の需要は日一日と著しく増加しつつあります。如何せん内地の製産額は現在の需要高の四分の一にも足りません、而して從來此不足額を供給して呉れた英米等の製鋼業者も亦各自國內の需要を充たすことに急であるが爲めに、到底外國の要求に應ずるの餘裕がありません。若し今日の勢を以て推し移たならば終には全く鐵鋼材の輸入が杜絶し、一面内地に於ては供給不可能であるが爲めに我工業界は鋼鐵の飢饉に遭遇して、我工業發展の爲めには千載一遇とも云ふ可き絶大の好機に際會しながら徒に袖手傍觀して居らなければならぬ有様であります。故に此際内地に於ける鐵鋼材の獨立自給策を講ずることが國家の最大急務であると信じて居るのであります。既に機械學會造船協會の如きは政府に建白して刻下の窮境を救済す可き手段方法を講ぜられんことを當局に向て陳情したのであります。尙此際需要者供給者等が一堂に相會して鐵鋼材獨立自給の具體的方法に就て研究討議することは最機宜に適したることであると考へました爲めに、茲に鐵鋼材に最關係深き機械學會、造船協會、火兵學會、電氣學會、鐵鋼協會の五學會聯合の講演討論會を催した次第であります。就ては御來會各位に於ては本問題に關し兼て種々御意見を有て御出のことと信じますから、此席に於て充分御陳述御討論下されんことを切に希望致します。而して若し此會合の結果として本問題を解決すべき具體的方法を案出すること出來ますれば、啻に吾人工業關係者の幸のみに止まらなと思ひます。然し討論をするにしても何等原案も議題もありませんから、先づ兼て御通知して置きました通り機械、造船、鐵鋼の三學會より御一名宛本問題に關する意見を述べて戴き、それに次で各位が順次此演壇に於て御討論下されんことを希望致します。就ては最初に今岡博士の御登壇を請ひます。